

新春号

# Y-MOT ネットワーク通信 Vol. 2

(山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻支援ネットワーク)

## 『今年こそ、Y-MOTネットワークの事業実践を！』

国際事業化研究センター長 高橋 幸司



《国際事業化研究センターについて》  
 地域共同研究センターとベンチャービジネスラボラトリーが合併した新たな組織として、10月に発足した。高橋幸司センター長・小野浩幸・柴田孝副センター長の陣容で、企業との共同研究や研究シーズのリエゾンだけでなく、国際戦略の推進・地域経済の振興を新たな責務として加える方針。

あけましておめでとございます。今年もY-MOTとそのメンバーの方々とともに楽しく、そして充実した一年になりますよう祈念しております。

新年を迎えるにあたり、今後のY-MOTに期待することを書かせて頂きたく思います。Y-MOTは既に80名を超える会員を有し、しかも毎年、確実に20名程度の新人が加入してくる着実に成長し続ける組織です。加えて、個々のメンバーが多様な業界で活躍する、種々雑多で他に抜きん出た能力を有する実力者達です。

したがって会員が有機的に相互に結びつくならば、どのような事業でも難なく展開できるものと考えます。しかしながら、どんな事業でも良いものとは思いません。山形大学理工学研究科のY-MOTの教育理念は「地域企業と共に構築する教育」です。したがってY-MOTで展開される事業も、地域の問題解決につながるものであってほしいと思っています。

まだまだY-MOTは助走段階ですから新しいプロジェクトが生まれてきていないのは当然のことと思います。でもMOTが設立されてから、はや6年目を迎え、卒業生が社会で活躍し出してから4年目になります。走りながら考えるのが私どものMOTの特徴です。その結果、5年間で4つのコースを抱え込むことになり、もがきながら前進してきたのは皆さんも知っている通りです。時々ほころびが出ながらも、改善を加えて発展してきました。大変ではあるものの、充実した時間でした。しかも全てのコースがユニークな教育システムで社会より高い評価を得ています。

MOTは教育機関ですが、Y-MOTは実践機関であるべきです。そのためには幾つかの事業を自ら展開し、その成果を社会に還元し、その存在を見せしていくことが必要不可欠です。

今、国際事業化研究センターでは置賜総合支庁より「置賜の未来の産業創出事業」を受託し、渡邊会長らを雇用させて頂き調査を進めています。この事業の成果は大きな波及効果を生むことが出来る可能性があります。

このような事業をY-MOTが受託できるようにすることも必要かと思えます。いずれにしろ地域の課題を抽出して、それをスムーズに事業化に結びつけて行くシステムを構築することが大切です。我々教員と共に世界から注目を集める地域を創造しましょう。

### 街中サテライトオープン



10月21日、米沢街中サテライト「ものづくり・ひとづくりキャンパス」をオープン。大学院理工学研究科ものづくり技術経営学(MOT)専攻、グローバル戦略コースの講義・実験スペースとして、また、産・学・官・金の集う地域産業支援の拠点となります。地域力連携拠点事業、Y-MOTネットワーク(MOT-OB)、米沢市元気プロジェクト等の事務局機能も集約されます。



### コーヒープレックでこんにちは！

植松 逸平さん MOT1年(第五期生)

ラーメンとスノーボードと釣りが大好きな、真面目で誠実な好青年。MOTでは、様々な職種の方との出会いとチャンスがあり、積極的に行動するのがたのしんでいらっしやいます。

何より、人との出会いのすばらしさを、入学してから日々感じているそうです。

今春から再開した卓球、そしてお仕事とMOTでの勉強の両立が、ラーメン好きでもスリムなお姿の秘訣と感じました。(インタビュー：黒田三佳編集委員)



# 『私とMOT』 シリーズ編

MOT二期生 伊勢化学工業(株) 佐藤 貴弘



(九十九里浜の風景)

MOTという言葉を知ったのは、2005年、弊社の電池材料開発グループリーダーを任せられた頃でした。  
 それまでは研究テーマを与えられ、その開発を進めていくことが仕事でしたが、「マネージメント」が主の業務となり、仕事の進め方に戸惑いを感じ、本を読みあさった頃です。その頃読んだ本の中にMOTに関する書籍が数冊あり、必要な知識を習得する一つの手法であることを知りました。  
 ちょうど同じ時期、ひとつの研究テーマが停滞気味であり、それを打開するために高橋幸司先生に技術支援をお願いしてありました。  
 いつぞやのミーティングの後、山形大学にMOTが設立されたこと、高橋幸司先生がMOT専攻長であることをお聞きし、漠然とした思いから、MOTを専攻したいという意思に変わりました。  
 私が所属しております伊勢化学工業株式会社は、千葉県の外房、九十九里浜沿いに位置する企業です。九十九里から米沢まで、特急、新幹線を乗り継ぎ、片道4時間の通学になります。卒業までに2年間×年30回＝60回往復したわけですが、高橋教授をはじめとするMOT関係者ならびに同級生のご支援、ご協力があつたからこそ、挫折することなく卒業できたと思っております。  
 2008年2月より同社製造本部鉱業部という、「天然ガスならびにヨウ素の原料であるかん水の採取」を担当する部署に移動いたしました。ライフラインにかかわる部署であることから、「①今すべきことはなにか、②将来のリスクとなることはないか、③そのときマネージャーとして如何に対応するか」を自問自答する毎日です。  
 その中で私が参考にしている書籍の一つに「メンタリング・マネジメントー 共感と信頼の人材育成術 福島 正伸(著)」があります。その中で、「リーダーが、手本を示し、信頼し、支持することで人は成長できる」と書かれています。

この本は、組織・人的資源管理特論の教材でしたが「自分がメンターになり、強い組織を作るために努力しなくてはいけない」と、再認識させられました。  
 これは1例ですが、MOTを専攻したことで、見識が広がったこと、将来にわたる財産になったことは言うまでもありません。  
 最後になりますが、山形大学MOT専攻ならびにY-MOTネットワークがますます発展していきますことをお祈りし、結びとさせていただきます。

## パーティー21と合同新年会を企画致しました！！

日時 1月22日(金) 十七時～十八時(引き続き二次会)  
 場所 街中サテライト 主旨説明・活動状況報告・他  
 会費 ￥2500円(二次会費用) 尚、二次会はスイートハートにて。  
 企業経営者の方々とはMOTの社会人学生・OBによる、新たな活動機会の誕生です。厳しい環境下、共通の課題・情報交換・技術交流・ビジネスチャンスへ！  
 皆様の参加を御待ち致しております。  
 \*申し込みは 090-03123-11485 渡邊まで。詳細はMOT掲示板を\*

## クラス便り

私達MOTの1年生は、早くも入学して8ヶ月が経過し、もう課程の3分の1は終了してしまいました。  
 初めは不安で学校を続けられるのか、など心配をしていました。しかし最近、同級生との仲間意識も強くなり、雰囲気にもなれ、楽しい有意義な学生生活を過ごしております。8月28日に第2回目の懇親会を「居酒屋えん」で開催いたしました。皆で楽しく盛り上がり、月に1回は開きたいと次回の幹事も決めました。  
 (MOT1年級長 吉田重男)

## MOT事務局便り

MOT事務局より大学の動きやMOT専攻に関わる情報をお知らせ致します。  
 ◎ 新年度から「ものづくり技術経営学専攻(MOT)」のホームページをリニューアル致しました。是非！  
 ◎ 第三次学生募集について  
 ・資格審査書類提出 2月12日  
 ・出願書類提出 3月5日  
 ・面接試験 3月12日  
 ・合格発表 3月24日  
 ◎ 学位記授与式 3月21日(日) (事務局)



## 《編集後記》

皆様、新年おめでとうございます。穏やかな新年をお迎えのことと思います。  
 昨年の暮れは事業仕分けの問題で一時騒然となりましたが、それなりの決着でほっとしております。  
 これからの我々の事業も、自主的な運営こそが目指す方向と考えております。高橋センター長の御助言にもありますが、是非新しい年を迎えて、新たな進化を求めて活動を継続したいと思っております。NPO法人化を視野に入れておりますが、皆様の御協力を改めてお願い申し上げます。(編集委員一同)